

## いままでのあらすじ

一行は Baba Yaga の小屋の中にあった謎の遺跡で Baba Yaga に関する手がかりを得た。  
遺跡を守る Guardian 曰く、

- ・上弦の月に乙女 (Maiden) を探せ
- ・満月に母 (Mother) を探せ
- ・下弦の月に老女 (Crone) を探せ

とのこと。そして、それらのメッセージとともに手に入ったメダルに書かれていた単語「Artrosa」。

首を傾げながら遺跡を踏破し、小屋から出てみるとそこは未開の土地 Iobalia  
いきなり Baba Yaga を敵視する Frost Giant たちに襲われたが、鳥小屋乱舞もあってこれを撃破、  
Frost Giant と敵対する Centaur たちと友誼を結ぶことができた。

### Centaur の集落

Centaur たちは一行が Baba Yaga の使者であると知ると敬意を持って迎え入れてくれた。  
古くからの言い伝えで Baba Yaga の使者が来たら大切にせよというのがあるらしい。  
その晩は歓待を受け、宴となった。

Centaur たちに聞いたところ、Artrosa というのは北の方にある聖地で、  
そこには半マイルほどもある女性の裸身像が三つ並んでいるらしい。  
一行がそこに向かうというと、族長はガイドを付けてくれるという。

そうして紹介されたのが若い女 Centaur の Eldija だった。

和やかな雰囲気の中、夜は更けていく。Centaur たちにペースを合わせ、  
冒険譚を肴に火酒をパカパカ開けていると、Sputnika と Eldija が酔い潰れた。  
宴はお開きとなり、族長たちは自分の幔幕に戻っていった。

いそいそと眠り込んで寝息を立て始めた一行は、幔幕の中にテレポートアウトしてくる存在に気付かなかった。

Kirsikka と Nass が気づいた時にはもう遅く、一行の寝床は青い肌と白い髭をした猿のような生き物に囲まれていた。

青猿はいきなり Righteous Might を唱えて巨大化。幔幕の中は非常に狭くなった。

慌てて飛び起きて干戈を交えるも青猿の DR に阻まれ有効だが出ないまま、爪爪噛みで一人また二人とダメージを受ける。

おまけに青猿は連続して冷気のプレスを吹き、Kirsikka が倒れてしまった。

Vanish して幔幕の外に出た Arl が Fireball を打ち込むと大勢は決した。

青猿は SR と炎抵抗があったが何故か同時に脆弱性があり、炎の中で次々と倒れていった。最後の一体に止めを刺すとその姿は消えてしまった。

騒ぎを聞きつけて Centaur たちが出てきたが、Kirsikka は冷たくなったまま、その体温が戻ることはなかった。

族長たちもその正体は知らないという。ただ、どうやら Demon の一種であるようで、Kostitiche カルトの Frost Giant 共のやったことではなかろうかということになった。

その日、Nazhena の呪いで Sputnika は悪夢を見た。そして、命が尽きたはずの Kirsikka も醜く化け物じみた老婆の顔が迫ってくる悪夢を見たのだった。

## Virnirn

翌朝 Kirsikka が起きてきたことで Centaur たちは面食らっていたが、一行は出発の準備を進めた。

Eldija にこの辺りの地理を効いてみると、Virnirn というケンタウロスの街が近くにあるらしい。幸いにして月が満ちていくまでには時間があるため、アイテムの処分を兼ねて一行は Virnirn に向かうことになった。

20 マイルほどを一日で歩くと Vernirn の街についた。Virnirn は人口の 95% が Centaur で少しだけ人間その他が暮らしている。

数千人規模の比較的大きな都市であり、集落に毛が生えたくらいと思っていた一行は新鮮な驚きを持って街に入った。

早速アイテムを処分し、Magic Item を探す。なんとこの街には Avadar の Cleric がおり、Casting Service を提供してくれることがわかった。

Remove Curse が出るらしいとのことで呪いに苦しめられている Sputnika, Kirsikka, Helvetica は Remove Curse を出してもらおう。

一回 300GP のリムカガチャである。

結果はまあ、Avadar は商売の神様だからね。

## Artrosa へ

Virnirn でアイテムを処分し、ワンドを補充し、リムカガチャに重課金（重大な呪いが解けるまで課金する、の意）した一行は改めて Artrosa を目指した。

途中の雪原で向こうからシカに乗った骸骨のような生き物が近づいてきて、襲いかかってきた。

骸骨のような上の方は Cold Rider という Fey で下のシカは Iobalian Giant Elk というご当地シカだった。

Cold Rider は威勢がよかった割には意外とあっさり倒れ、戦利品として Horn of Fog を残していった。

Cold Rider を退けて一日ほど進むと ,周囲は切り立った渓谷となり ,やがて高さ 1000ft はあろうかという巨像が 3 つ見えてきた .

巨像はいずれも裸女の像で ,確かに伝承通りひとつは若い女性( Maiden ) ,ひとつは妊婦( Mother ) ,ひとつは老婆 ( Crone ) の像だった .

この辺りの言い伝えではこの像の頭頂部に入口があるとかないとか . 今の月は満ちていくところであるし何にせよ求めるものは像の中であろうから  
とりあえず登ろうということで頑丈で崖登りが得意な Kirsikka に Ring of Featherfall を渡して Maiden の像に先行偵察に行ってもらおう .

何十分か掛けて中程まで Kirsikka が登るとオゾン臭とともに青白い火花が Kirsikka の周りに散った .

姿は見えないが何者かが電撃を与えてくる . まずいと思った Kirsikka はそのままダイブし Feather fall でゆったりと降りて戻ってきた

そういうことをするのは Will'o'Wisp に決まってるが ,わからなくても電気ダメージ食らったんなら対策しても悪くないよね ,ということで ,今度は Kirsikka に Resist Energy を掛け ,変身して空を飛べる Nass と , Fly(perfect) で Immunity to Electricity な御猫様とで行ってもらった .

Will'o'wisp は完全に無力化されてパチパチとやっていたが諦めて去っていった .

登り切ると ,Maiden の像の頭頂部は十分な広さがある台地ようになっており ,木まで生えていた .

そして ,あたりを見回す Kirsikka たちの前で一本の大きな ( Huge ) 木が動き出し , Common で問いかけてきた

「試練に答えるかさもなくば生贄を捧げよ」

形勢不利と見た Kirsikka は再び「サラバダー」と Dive & Feather Fall .

Feather Fall がとても保たない高さなのでそのまま途中の岩棚を掴み ,下で待つ仲間との連絡には御猫様が向かうことになった .

降りてきた御猫様の言葉に全員で脅威に立ち向かう必要を悟った Arl & Diana & Sputnika は Spontaneous Caster 特有の Slot の多さに物を言わせて Eldija 含めて全員を飛ばす & Resist Energy . 途中の Will'o'wisp を華麗にスルーして ,一行は誰一人として欠けることなく全員で頂上に降り立った .

再び木が動き出し ,試練か生贄を求める .

今回はもし決裂してもなんとかなる戦力なので ,試練に答える用意があると告げる .  
すると木は謎掛けをしてきた .

Midnight, Morning, Bright Sun?  
Spoke thee with but one.  
Accursed now you be,

For he befell the wrath  
Of two times seven.  
Oh tell me, who is he?

芝居がかった言い回しもさることながら問いの内容が断片的すぎて条件に合うものがさっぱりわからない。

とりあえず当てずっぽうで色々言ってみるも当たらず。

Helvetica が 3 に関係する今までで意味深だったものということで「Baba yaga の三騎士」と適当ふかしてみたところ、  
木はニヤリと口元を歪めた。

「なるほど、ではその真の名はなにか？」

そんなもんわかるわけねーだろ！シナリオにも書いてないんだぞ！これが DM の！そして PL たちの答えだーッ！！（Initiative が振られる音

Initiative をとった Kirsikka と Helvetica で囲んで攻撃を加えると木は後ろに下がって何事かしょうとしたので Helvetica が Stand Still で動きを封じた。  
それならばと精神集中を通した木の目が妖しく光った。

「後ろの魔術師が鬱陶しいからぶっ殺してきなさい」

「はい、Helvetica 後ろの鬱陶しい魔術師をぶっ殺します（フワ～）」

胡乱な笑みを浮かべた Helvetica は後退し、Arl にふらふらと近づいていく。

しかし、あわや、というところで Helvetica は奇跡のような出目で踏みとどまり、Arl に向かって振り下ろそうとした剣を止めた。

Helvetica が Dominate Person (DC:22) を破ったことで大勢は決した。

木の触手 6 連撃が炸裂して一瞬で Sputnika がマットに沈んだとか些細なことだった。  
君普通に殴ったほうが強くない？

## Maiden の像の中へ

木(誰も調べなかったけど Witch Tree という名前だったらしい)を倒して探すと Maiden の像の中へと続く落とし扉が見つかった。

中に入っていくとそこは通路となっており、像の下の方へと下っていく作りになっていた。  
玄武岩の壁に連綿と、春をイメージした彫刻が彫られていた。

しばらく進むと少し開けた部屋で階段は折り返していた。

踊り場ともいべき部屋の北の壁には若い裸婦が彫られており、東の壁には上弦の月を眺める若い女性の絵が彫られていた。

どうにも、ここは Maiden の像ということでイメージは統一されているらしかった。

その部屋には Ettin Witch (名前をグラグラと言った) がいた。片方の首が Misfortune を延々と Cackle しつづける間にもう片方の首が身体を使って殴るというスタイルだったが多勢に無勢で瞬く間に倒された。

踊り場を抜けて先に進むと、一行は Frost Giant と出くわした。Frost Giant は「侵入者だ！ Guardian 共が攻めてきたぞ！」と叫んで戦闘態勢を取る。

像を守っているのはどちらかと言うと Frost Giant たちの方ではないかと思うのだが、Baba Yaga の護り手とかそんなような意味なのだろうか。とにかく戦闘になった。

Helvetica が Frost Giant に張り付いて戦線を維持、奥からの増援に備えていると、増援がやってきた。Teleport で。

やってきたのは幔幕で我々を襲った白い髪の悪魔。6体くらい。

経験を積んで Knowledge を通した Diana(の師匠の猫)曰く、アンドラズクという一種の Demon とのこと

移動困難な縦長の通路で戦線維持というコンセプトをひっくり返す Teleport 強襲。いきなり苦境へと追い込まれた。

Nass や Kirsikka が対応するもアンドラズクはそれなりにタフで倒しきれない。瞬く間に被弾 / ダメージが蓄積。

やばいぞ DPR 上げる、という声が Frost Giant と剣を交える Helvetica の耳に届く

「はい、Helvetica DPR 上げます (フワ～)」

Challenge をして DPR を上げた Helvetica だったが、直後 Frost Giant の斧からいい感じの一撃が飛び出たのでダメだった、

戦線とは何だったのか。階段の足元に気を取られ、なかなか回復も届かない。

前衛が倒れれば中衛が、中衛が倒れれば後衛が。皆が皆起き上がりこぼしとなりながら必死にアンドラズクの攻撃に耐えて、なんとか削りきることができた。

さすがに無理なので一旦道を引き返し、Maiden の像の頭の上で野営をすることにした。

Nass の呪文のお陰で吹きさらしの岩棚が瞬く間に Good berry の出る素敵な野营地となった。

なんとか眠る一行 / 就寝中に飛来する大きな影 / 炸裂する凍結プレス

Frost Drake の夜襲であった。

ただ、遮蔽物もない空中で炎に Vulnerability のある大きな生き物が飛んでいる、その状況は敵が多数の場合と並んで Arl が得意とするところ。Empower された Scorching Ray が何本か当たると、Frost Drake は叫び声を上げて落ちていった。

夜が明けたら再び Maiden の像を探検しよう、となったところで次回へ続く。